別紙１

○採択予定件数及び１件あたりの予算規模

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 種別 | 採択予定件数 | １件あたりの予算規模（消費税込） |
| 1. 立地地域人材育成支援型
 | 2件 | 上限額：1,500万円下限額：1,000万円 |
| 1. 特定課題解決支援型
 | 1件 |

○内容及び育成対象者

１．「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」において重要度が高い（重要度が◎）とされている課題の解決に資する人材の育成を対象とする。

* 福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全目標の設定とリスク認知

・緊急時対応における情報共有や意思決定判断基準の高度化（環境影響評価／事象進展予測技術の高度化）及び意思決定の教育訓練

* 組織対応力強化（専任化、事故時手順書の高度化）や対応要員の教育訓練（事故時対応力強化等）の高度化
* 地震、津波以外の外的事象が及ぼすリスク早期把握と継続検討項目の抽出
* リスク評価に用いる地震影響評価技術の構築（断層変位，斜面崩壊等のリスク評価も含む）
* 核セキュリティ対策強化に伴う安全対策への影響評価／人為ハザードによる安全リスクの検討／「深層防護」における安全と核セキュリティの統合
* 安全解析手法の高度化
* 耐久性・復元力を強化した世界標準の軽水炉設計の構築
* 最終ヒートシンクの多様化と高性能化
* 深層防護の第１－３層から第４層及び第５層まで総合的に考えた設計への取組による事故制御性の抜本的向上
* リスク評価手法の改良とＳＡ対策への適用
* リスク情報活用による保全・運用管理の高度化
* 状態監視・モニタリング技術（予兆監視・診断、遠隔監視・診断等）の高度化
* 被ばく低減技術の高度化（水質管理技術、遠隔操作・ロボット技術、放射線防護技術）
* 高経年化評価手法・対策技術の高度化
* システム・構造・機器(ＳＳＣ)の信頼性向上と高度化
* 大規模自然災害対応へのリスクガバナンス構築
* リスクマネジメントに関する人材研修の海外からの継続的受け入れ
* リスクマネジメント分野で活躍が国内外でできる人材を継続的に輩出する
* 設計や建設から廃炉までの知見に基づくプラント管理ができる人材を維持する
* リーダーシップを発揮し、複数組織を束ねて事故対応に当たれる人材を輩出する
* 稀に発生する大規模な災害の事故に関する知見を継続的に研究し、安全性向上へと反映する人材を輩出し、維持する
* 安全な廃炉プロセスをマネジメントする人材を継続的に維持する

・核不拡散や核セキュリティの国際的な課題に向けてわが国が積極的に貢献する

・核セキュリティ教育の資格制度等により、人材教育・育成・輩出に取り組む

* アジアを中心とした原子力新興国の教育システムの自立支援、教育機関（COE)とのネットワークを構築する
* 中長期的な視点で若手人材を育成し、将来の原子力安全を担う人材を確保する

２．「原子力の自主的安全性向上の取組の改善に向けた提言」の中で指摘されているニーズに合致する人材の育成。特に、以下のようなニーズに合致する人材の育成を対象とする。

* 「ｋｎｏｗ　ｗｈｙ」の視点から物事を考えられる人材の育成
* ヒューマンファクター分野に知見を有する人材の育成
* 技術以外の知識も活用して発電所の安全管理を行い、国際安全基準の策定等においても活躍できる人材の育成・確保のための社会人教育機能の整備
* 対外的な発信力のある人材並びに原子力に関心のない人材を対象とした、リスク分析やリスク管理及び外部ステークホルダーとのシビアアクシデントを想定したリスクコミュニケーションを実施する能力の育成並びにその教材の公開。

　・資格制度や社会人の継続的な教育システムの検討

　・廃炉や除染の分野で活躍することに対するインセンティブを高める仕組みの必要性